

空き家改装支援で協定

各務原市が「産学金」と締結

市長「全国初、成功に導く」

各務原市が本年度から進めている、空き家の改装を産官学と金融機関で手助けする全国初の取り組み「空き家リノベーション事業」連携協定の締結式が24日、市役所で開かれた。浅野健司市長は「先進事例として、必ず事業を成功に導く」と述べた。



空き家リノベーション事業に参加する金融機関の代表者らと浅野健司市長(前列中央)
＝各務原市役所

つ若者の移住定住と、空き家の有効活用を目指す。

設計事務所は「ミューキデザイン」(岐阜市)、大学は岐阜女子大(同)、金融機関は、市内に拠点がある十六銀行、大垣共立銀行、岐阜信用金庫など九つの金融機関が全て参加する。

締結式には関係者ら約40人が出席。浅野市長は、既に空き家の所有者から約20件の問い合わせが寄せられていることを紹介し、事業への期待感を示した。借り主への無担保融資で支援する各金融機関の代表者は「地方の活性化に寄与したい」など意気込み、それぞれ協定書に署名した。

(舌間隆博)